

第1回次世代協議会第三部会（地域・環境）概要

平成18年10月3日（火）午後2時から
区役所本庁舎6階 第三委員会室

出席者 福富護、鈴鹿美佐子、玉盛正陽、秋山英淳、渡辺芳子、田谷節子、飯島泰文、
新倉康夫、吉田哲也、青木俊明、塚本里子、
戸塚警察署 代理 生活安全課長 山形哲、
四谷警察署 代理 課長代理 堀田一二
新宿消防署 代理 警防課長 原修

1 開 会 子ども家庭支援係長

2 挨 拶 部会長

子どもたちの安全安心を重要テーマに活発な意見をいただきたい。
なかなか具体策までいかないが、昨年の話合いでいくつかの課題が出された。
子どもの健全な育成のため、安心して過ごせるような場づくりが必要。
子どもの見守り活動として「声かけ」が始まっている。今日的な状況をどう展開できるか。教育の現場は大変かわってきた。以前は「知らない人に声をかけられたらついていってはいけない」と言っていたのが、最近では「知っている人にもついていってはいけない」とマスコミ等々でも言われており、異常な事態となっている。
声かけの活動を区としてどう展開できるか議論を深めたい。
また、地域の育成活動をどう理解してもらうか、参加を得ていくか。事前に事例をお願いし現状を報告いただいた。

3 事前提出資料の説明 事務局

4 議 題

- (1) 次世代育成支援現状と課題について
 - ア 青少年育成委員会を中心に
 - (A) 活動事例について
 - 日常的な活動
 - 行事等
 - (B) 課題の絞込みについて
 - イ 課題解決にむけて
 - ウ まとめ
- (2) その他の課題

5 議 事

部会長

この協議会では、子どもの安全を守るために日常的にどのようなことができるかを絞るのもひとつの案だと思う。各地区でイベントが活発に行われている様子はよく分かった。しかし、イベントを他の地区に広めるというのは、各地区の積み重ねがあるだろうから難しい。イベントをつなぐというより、日常的なものを考えていってはどうか。補足等があればご発言いただきたい。

委員

イベント的なことは、どの地区でもやっていることだと思う。特にこの第3部会では、地域と環境がテーマなので、理解して進めてほしい。

委員

どこの地区も同じことを一生懸命やっているが、その中で特に報告したいのは、「ほっとたうん」という地域紙を牛込筆筈地域センター管理運営委員会が発行している。平成14年9月に地域の課題を考えることからスタートした。そのころ、学校5日制度が導入され、子どもの居場所を考えることから始まった。

ポイントは、管理運営委員会に参加している各団体が同じような事業をそれぞれで繰り返し広げていくというよりも、もう少し一緒にやることによりネットワークの真髓を生み出したいということで、9団体が3年以上やってきた。同じ机の上で話し合う場をつくってきた。次年度の料理教室の企画や平成19年度の役割担当など、各団体の代表が集まって、次年度へ結びつけていくような話し合いをしている。

当初は、各団体が委員会の事業をやらされているという意識があったが、徐々に自分たちの事業であると考え、主体的にやるようになってきた。

参加団体のひとつである東京理科大学の学生ボランティアサークルは、子どもを対象に理科実験の催しをしている。参加者は2~3人の場合もあれば、10~15人集まることもある。参加者の人数で成功かどうかを判断するのではなく、継続してそういった催しをやっているということが大切であると考えており、「ほっとたうん」でお知らせしている。

スポーツの催しなど、屋内・屋外両方とも記載して一目でわかるようにしている。

筆筈地区の方からの事前報告は、2~3行程度の記載にとどまっているが、いろいろなことを行っている。地域が手を結んでいるいろんな団体が協力してやっている。同じことをやるのであれば、手を組んで濃いものを作っていきというのが今後のポイントになるのではないかと思う。

委員

報告は、どこの部分でどこの団体と協力しているか、どの部分に力を入れているかが、具体的に理解してもらえるように書いた。

委員

筆筈地区について加えると、地域レクリエーションとして10月15日に各小中学校と警察署、消防署を含む7~8団体による大運動会を、今年は市谷商業高校で開催した。今年で24回目の伝統ある行事である。

ピーポ110ばんのいえ、出前講座、・・・防犯ステッカー、・・・神楽坂阿波踊り・・・など地域センターを中心とした行事を、管理運営委員会に縦横無尽に人が集まり活動している。

部会長

日常的に、子どもの安全育成のために何ができるかについて話し合いを進めたい。

声かけについては、地区による特色や温度差があるだろうが、皆で話していい知恵

を出していききたい。例えば大久保地区では、大きな盛り場を抱えているというところで、それなりの苦労があるかと思う。ベースのところでは日常的にどうしたらクリアできるか。

委員

牛込地域では、民生児童委員の声かけ運動を始めた。毎週水曜日の8:00~8:25に、民生委員が、担当する小学校に2人ずつぐらい立って児童に声をかけている。スタートのときに、校長先生がいい判断をした。全体朝礼のときに、民生児童委員の仕事や、これから毎週水曜日に校長と一緒に見守りに立つということを説明し、顔合わせする場を設けた。子どもたちも承知の中で、会話や対応が成立しており、日常、外に出たときに顔を合わせても、少しずつ信頼を得てきている。信頼関係を保てるように活動を展開していきたい。

部会長

声かけの目的は、見守るのが目的ということなのか。

委員

学校の門は、危険度としては低いですが、子どもたちに地域に見守ってくれる人がいるというのを知ってもらうことである。町で日常会ったりすると、面識があるのとないのとで違ってくる。

部会長

どのような効果があるのか。地域の大人の顔を知ってもらうということだが、小学校でお終いか。中学校に及ぶことも考えているのか。

委員

地域の安全のために大人がそういう活動をしていると、子どもたちに危ない人ではないという認識ができて、中学生にもいい意味でつながっていくだろうという希望を持っている。どう方向を見極めるかがこれからの課題である。

委員

日常的にまず自分の家の近所。メインは登下校時。地域センター内では、中学生が来ていたら挨拶をしたり、うるさかったら叱ったりと、地域の大人の顔を覚えることができる。そういう積み重ねで、顔を知り、話ができる、日常で会っても話ができるようになる。そういったことが安全安心につながると考えている。

委員一人一人がそういう意識を持つことで、住みやすい環境ができていくと思う。声をかけてくれと言っているわけではないが、「あの子知っている？」という会話で、だんだん広がるのが大事だと思う。

部会長

「声をかける」ことそのものが目的ではなく、大人と子どもが顔を見知っている関係をつくるのが目的。やることは例えば交通整理でもいい。あのおじさん、おばさんは地域の人だと分かることが大切であり、地域の大人がいるということ子どもた

ちに見られている。声かけをきっかけに人間的なつながりが復活できれば、問題から救われるのではないか。

警察から専門家として何か意見はあるか。

警察

登下校時の警戒などいろいろとやってはいるが警察だけでは限界があると考えている。小学校が5ヶ所あり、通学路をある程度誘導して、ポイントを決めて警戒にあたっている。

警察は、父兄、地域、協力団体等の協力をもって、安全に通学できる環境づくりを目指しているが、なかなか実現に至っていないのが実情である。

どうしたら子どもたちを安全に守れるか苦慮している。確かにセーフティ教室等を通じて声かけやピーポ110ばんのいえですぐ助けを呼ぶなどの施策は講じているが、子どもたちに浸透しているかは判然としない。

部会長

どこまでやったらパーフェクトかというのはなかなか難しい。いかに安全を確保するかも大事であるが、いかに健全育成していくか。好ましくない、不健全な行動を食い止めるか。中学生を健全に、そういう意味での安全な成長に、声かけの精神がつかがるのではないか。登下校時の安全確保も大事だが、次の波及があるのではないか。

委員

育成会以外の活動も含めての話だが、まず知り合いになることで、フォローする体制が成り立つと思う。それで向こうからも声をかけてくれる。継続的な活動、例えばイベントに向けての実行委員会などを工夫している。目的がある活動で、子どもと関わりを持って、子どもたちに「地域の大人になる」ことを徐々に理解してもらえと思う。子どもも高校生になると、行き場がなくなる。小学生、中学生のうちに、町会、育成会の中心に関わりを持たせて、地域に溶け込むよう、地域で必要とされていることを知ってもらおう。

学校が門戸を広げてもっと地域を認めてほしい。子どもたちと地域との接点を持たせる役割が学校にあると思う。働いている母親が増えているので協力を得るのが難しいが、地域の中で子どもたちの根が生えることを親に理解してもらいたい。見守るだけでなく、根を広げる場所をどこかにつくらないと。子どもが、地域の外に出て行かない小さいうちに、ある程度役割をあげたらいいと思う。

部会長

PTAの立場からはどうか。

委員

新しい学校で今年創立2年目である。声かけは、学校内で会ったら「おはよう」「こんにちは」から始めないとできない子が多かった。これは地域ではなく家庭の問題だと思う。校長や先生方が、強力で毎日やっている。小学校のうちにそういうことができていない。

子どもではなく家庭が変わって、地域の環境が変わった。公立学校のおかれている

状況は多様化しており、スピードについていけないと肌で感じている。各地域で学校や教育関係者にいろんな話を聞いたが、子どもは変わってなくて、周りが変わってきている。

一番の問題は親に積極的にアプローチしないといけない状況にあるということだ。中学校のPTAにできることが少なくなったと思う。30~40年前のPTAのような活動ができていない。今行っていることをするのが精一杯で、新しいことをするには、地域やスクールコーディネーターの働きかけがないとなかなかできない。

隣と干渉し合わないマンション住まいの人が増え、子どもの住所も、校長に直接聞かないと分からない。いろんな問題が絡んでいて、現実的には無理な状況である。

学校内での対人関係やコミュニケーションも一部の親しか評価していない。

部会長

地域にも共通している。地域に参加する子やその家庭はいい。地域に関心を持たない家庭をどうすればよいのか。

PTAはもっと深刻だと思う。全部の親を対象にせざるを得ない。変わらない親にどう働きかけたらよいのか。親への啓発活動をどうできるか、あるいはできないものなのか。

委員

居場所事業として「土曜スクール(土曜日の午前中)」をやっている。これは公立中学校がやっている塾で、先生は大学生や東京電力の社員。「教育」なので、親の関心を得ている。

中学生になると個々の自我が強くなり、親も引いて参加してこない。そこを「勉強」というテーマで呼びかけ、180人、全校生徒の半数よりちょっと多いぐらいの参加を得ている。基本的に勉強だけで、スポーツなどはやらない。PTAもお茶を出すなどボランティアで参加している。「教育」に関するところで、親が出てくる場になっている。

委員

理想は、各団体が地域でまとまっていることである。都立の幼稚園では、幼稚園ごとの催しで、お母さんたちの手作りのコーナーがある。参加してみると楽しくなるようだ。大人が楽しめば子どもも楽しい。

保護者会もなかなか人が集まらず、5~6人程度である。「教育」例えば「受験」を題材にするなどの工夫をしないと出てこない。

子どもも中学生ぐらいになると、親に「学校に行かないで」と言うところも多い。最初が肝心で、子どもの言いなりではなく、親の権利として参加してほしい。

親への働きかけが必要だと思う。子どもが小さいうちに。幼児教育以下の段階で。

部会長

地域で、我々ができる何か手立てはないのか。

委員

地域レクリエーションで保育園のお母さんを取り込みたい。「外遊びで子どもを鍛えよう」という研修をしたり、火起しやプランコ作り、木工などを行っている。地域の方

が毎回手伝いに来てくれる。それに来る親はいいが、来ない人を取り込むのが難しい。保育園や保健センターにチラシを置いている。

区民会議では母子手帳に記載するよう提案した。

強制されるとつらいが、それで知ることもある。「初めは面倒で嫌だと思っていたけど、やってよかった」という言葉も出ている。

委員

愛日小学校の運動会は、併設の幼保一貫教育があるので、保護者がとてもたくさん来ていた。その頃から意識するようPRするのがよいのでは。

自分の経験から、地域での活動は日常生活の一部となっている。PTA活動から始まり、育成会活動、地域ボランティアと自然と活動してきた。気長に考えたほうが良い。

家の前の掃除をしていると、この頃はあちらから声をかけてくれるようになった。津久戸小学校の子どもたちが「お祭りがあるので来ないか」と声をかけてくれた。近所のおばさんだと思って安心しているようだ。

部会長

教育には長い時間が必要ですぐには効果が出ない。皆さんの子どもの時と比べたら、地域活動は活性化し、教育環境は良くなっているはずなのに、子どもを取り巻く環境は良くないし、問題が出ている状況である。何か発想を変えないといけないのではないか。

地域の活動に関心を示さない親がもちろん昔もいただろうが、昔より表面化している。家庭の問題と言ってしまうとそれまでとなってしまう。地域で何かできないか。

子どもたちへの声かけが、親への間接的な働きかけとなるようにするには、どう対応したらいいのか。あるいは対応できないのか。

委員

育成会以外の活動で、花いっぱい運動をやっている。地域から協力費として1,000円ずつ集めている。町会が推薦したお宅にプランターを置いている。今年から試験的に学校とまちで活動を始めた。プランターにはラミネート加工した札をつけてあるので、まちの中のどこにそのプランターがあるか探索するなど、関わりが少しずつできてきた。ささいなことだが、子どもがやっていることを親も見ることができるのが良い。

学校に余分に花を育てていて、地域の花が枯れていたら交換するつもりでいる。

元は四谷第四小学校が地域への働きかけとして、アルミ缶を集めて花に替える運動をしていた。アルミ缶を集めた分だけでは、多くの花にはできないので、地域からの協力金を得て、今では地域センターを中心に新宿区全体の活動へ広げようとしている。

部会長

アイデア次第で小さなことから関わりの輪が広がる。こういったアイデアも出していきたい。

地域と学校は必ずしもぴったり一致していないと思う。地域というのは昔から固定的にあるが、学校は少子化による統廃合が進んでいる。地域と学校の融合はもう不可能なのか。

委員

地区協議会では、出張所を中心に、地域センターを拠点に活動しているが、そこに重点を置くような形にしていかないと地域社会の環境を全般的に見ることはできないのではないか。戸塚には地域センターがない。これから造るが、地域センターがあるのとないのでは全然違う。地域センターのある地区は地域社会の環境を全般的に見る拠点づくりを行ってほしい。

地域センターは地域のボランティア活動の拠点となるので、地域で活動してきた人たちの意見を聞けばいいと思う。

部会長

中学生の親御さんへの働きかけが難しい。

委員

中学校は学区がなくなり、どこの中学に行ってもいいことになったことから、PTAで問題になっている。学区がものすごく広い範囲になってしまい、地域ではなく区全体になっている。

小学生は地元の子供が多いが、中学生になると、中高一貫教育の私立中学への熱も高く、多くのマンションに子供がいても、この辺りの学校ではないようだ。

小学校では地域と関わりが持てるが、中学校となると小学校と同じようにはいかない。しかし、地域の子供であることに変わりはない。

目の前のマンションでも、道路を挟んで向こうは町会が違うので住民をあまり知らない。

委員

給食費を滞納する親が増えている。簡易裁判所に訴えて差し押さえるという状況までできている。余裕のある家庭でも「義務教育だから」と言って、払わない家庭がある。

食べるときに「いただきます」というのはなぜかと言う。お金を払っているから言う必要がないと考えている。食事というのが「命をいただく」ということが解っていない。

そういう人たちに、必ず一回はPTAの役員をやるような規定にして、交流を深め自覚や自分育てをしてもらうことも必要かと思う。

いい先生を招いて講演してもらっても、「聞いてほしい人」が来てくれない。残念なことだ。

部会長

何らかの知恵があるだろうと思う。そういう親に対して地域や行政は何かできないか。難しいが、一步でも半歩でも何かポジティブなことを、親に対する親育成となるかもしれないが、どう考えたらよいか。

委員

これまで小・中学校でPTAの会長をやって、「あの人は好きだからやっているんだ」と言う人もいたが、子供のためにはと思えばどんなことも気にならなかった。

少年サッカーでボランティアをしてきて、子どものときに参加していたのが成人して、

コーチになるという人もいる。長い目で見て、繰り返しのいろんな形の奉仕活動が実を結んでいる。

家庭教育といっても、子どものことで協力し続けていれば、いつか親のほうに気づくときがあると思って、あきらめないようにするしかないと思う。繰り返し時間をかけてやるしかないというのが、長年の経験である。

自分の子どもに対しては、親の背中を見て育つという希望を持ってやっている。

委員

まず知らしめることから。小学生はおもしろいものを企画すると集まる。中学生の場合は、企画から任せると生き生きとすることが、最近になって分かった。

3 on 3の大会が今年で12回目となるのだが、従来は基本的に大人が仕切って子どもが参加するという形だったのを、去年、今年と企画・運営から子どもが参加するようにした。生徒会やバスケットボール部の部員の協力を得ている。中学生は任せてやらせたら生き生きとしている。

親に対しても、PRがまず必要である。映画会は、例年は100名程度の参加であるが、今年は「チャーリーとチョコレート工場」を上映したところ、250名の参加があった。普段、動かない人も掲示板は見ているようだ。

来た人に我々は育成会の活動をしているということをいかに知らしめるか。集まった朝に育成会を知っているかを聞いている。何か行事をするにしても、どこの主催で誰が対象なのかをきちんと知らせることが大事である。それが後々の口コミにつながると思う。口コミは大きな力だと感じている。

部会長

具体的な方法として、口コミという話が出たが、もう一步、何かできることがあるか。

行政ができるものについて、もう少し考えれば。もう少し時間を置いて、各委員の皆さんが考えていただいて、もう一回会議を開きたい。知恵を絞って、何か出せるのでは。

親への啓発をどのように行っていけるのか。学校が違う子どもも含めて地域の子どもである。今日の話し合いで共通の認識ができたと思う。

この場は、地域会議ではないので、そういう意味では行政ができることについて、地域のバックを持った委員が集まって次世代協議会に対する提言を考えたい。行政による地域へのバックアップ策や、行政が地域へのお願いすることを考えていく。

委員

世田谷区では駅前に支援センターができた。これは次世代の提言を受けてつくったそうだ。例えば地域センターがある拠点で親子支援、子育て支援センターなどの相談室をつくることも考えられる。

事務局

次世代育成支援計画は、区の事業として行っているものについては書き込まれている。ただ区がすべての事業を行うということではなく、地域のそれぞれの団体が子どものために活動していくという中で、区としてどう支援していくかが大切になってく

るのではないかと思う。計画通りに推進しているか進捗状況を確認し、見直しも地域との連携で考えていきたい。

部会長

「親の意識改革をどうしていくか」が今日の話で出てきた。もう少し突っ込んだ意見を出し合って議論を深めて行きたい。次回の会合に期待している。

事務局

次回の日程

12月中旬で調整し、後日各委員に連絡する。